

項目	内容
名称	トチュウ、杜仲 [英]Chinese gutta percha、Eucommia、Hardy rubber tree [学名]Eucommia ulmoides
概要	トチュウ (杜仲) は、中国原産のトチュウ科の落葉高木で、日本には大正時代に渡来した。葉を茶として利用する。日本薬局方では、トチュウの樹皮が生薬として収載され、降圧、強壯、鎮静などに利用されている。
法規・制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 食薬区分 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 樹皮：「専ら医薬品として使用される成分本質 (原材料)」に該当する。</li> <li>・ 果実、葉、葉柄、木部：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料)」に該当する。</li> </ul> </li> <li>■ 日本薬局方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トチュウが収載されている。</li> </ul> </li> <li>■ 食品添加物 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 天然香料基原物質リスト トチュウが収載されている。</li> </ul> </li> <li>■ 特定保健用食品</li> </ul>

・杜仲葉配糖体を関与成分とした「血圧が高めの方に適する」保健用途の表示ができる特定保健用食品が許可されている。

#### 成分の特性・品質

##### 主な成分・性質

・樹皮にイソプレンの長鎖重合体であるグッタペルカや、リグナン、クロロゲン酸などを含む (24)。  
・葉にイリドイド類 (ゲニポシド酸、アスペルロシド、オイコンミオールなど)、ケルセチン、クロロゲン酸などを含む (2019047156)。

##### 分析法

・葉の50%メタノール抽出物中のゲニポシド酸、アスペルロシドをHPLCにて分析した報告がある (2000112041)。

#### 有効性

##### 循環器・呼吸器

##### RCT

・正常高値血圧または軽症高血圧者85名 (試験群41名、平均51.3±11.2歳、日本) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、トチュウ葉抽出物含有飲料50 mL (トチュウ葉配糖体1.0 g以上/日) を12週間摂取させたところ、収縮期血圧、拡張期血圧の低下が認められた (2004202143)。  
・正常高値血圧者または軽症高血圧者87名 (試験群44名、平均54.6±9.0歳、日本) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、トチュウ葉抽出物含有飲料350 mL (ゲニポシド酸80 mg以上/日) を12週間摂取させたところ、収縮期血圧の低下が認められた。一方、拡張期血圧に影響は認められなかった (2006162873)。  
・正常高値血圧で血管拡張力が低下した男性および閉経後女性42名 (試験群19名、平均52.2±7.7歳、日本) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、トチュウ葉抽出物含有飲料350 mL (ゲニポシド酸85 mg /日) を12週間摂取させたところ、収縮期血圧の低下が認められた。一方、拡張期血圧、血管内皮機能 (FMD) に影響は認められなかった (2015345462)。

#### ヒトでの評価

##### 消化系・肝臓

調べた文献の中に見当たらない。

##### 糖尿病・内分泌

調べた文献の中に見当たらない。

##### 生殖・泌尿器

調べた文献の中に見当たらない。

##### 脳・神経・感覚器

調べた文献の中に見当たらない。

##### 免疫・がん・炎症

調べた文献の中に見当たらない。

##### 骨・筋肉

調べた文献の中に見当たらない。

##### 発育・成長

調べた文献の中に見当たらない。

##### 肥満

調べた文献の中に見当たらない。

##### その他

調べた文献の中に見当たらない。

参考文献

- (22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第1版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳  
(22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第2版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳  
(24) 漢方薬理学 南山堂 高木敬次郎ら 監修  
(1996156498) 衛生化学 . 1995;41(6):463-9.  
(2000112041) 千葉県衛生研究所研究報告. 1998;22:5-9.  
(2004202143) Health Sci. 2004;20(2):166-76.  
(2006162873) Health Sci. 2005;21(2):198-211.  
(30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添1、別添2、一部改正について)  
(2015345462) 薬理と治療. 2015;43(2):195-205.